

「第3次対がん10か年総合戦略」 に基づく研究開発

平成15年9月11日

文部科学省

研究振興局

文部科学省における平成16年度概算要求における 第3次対がん10か年総合戦略に基づく研究開発

- 革新的ながん治療法の開発に向けた研究の推進
～ がんトランスレーショナル・リサーチの推進～
優れた成果が現れているがん免疫療法、分子標的治療法に係る基礎研究の成果について、次世代のがん治療法の開発につなげるための橋渡し研究の推進)

(25億円 新規)

- 独立行政法人放射線医学総合研究所
○ 重粒子線がん治療試験研究の推進

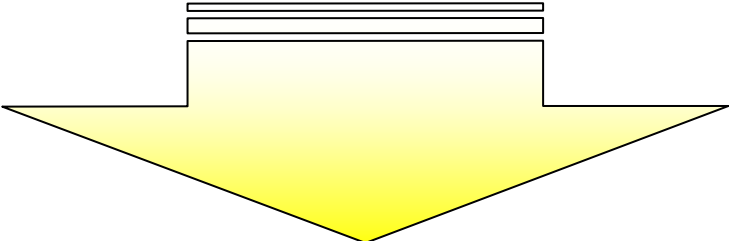
(肺がん、肝がん等の臨床試験及び治療成績の客観的評価 等) (64.7億円)

- 小型加速器開発のための技術要素開発の推進

(平成18年度には小型加速器を製作できるようにするためのR&D)

(10.4億円 新規)

(運営費交付金中の推計額を含む)



がんの予防・診断・治療等への応用

第3次対がん10か年総合戦略の対応について

(参考)

これまでの研究の成果

第1次、第2次がん戦略
(昭和59年度～平成15年度)

- 遺伝子の変化でがんが生じることが明らかに
- 一部のがんのなり易さの遺伝子診断が可能に
- 発がんに関係するウィルスが明らかに
- 重粒子線治療装置による臨床試験の開始
- がんの移転のメカニズムの解明が進展

等

第3次対がん戦略等の指摘

- 大腸がん等の欧米型のがんの増加や膵がん等の治療率の向上が困難な「難治がん」の存在
- 学横断的な発想によるがんの本態解明の飛躍的推進
- 基礎研究の成果を積極的に治療等に応用するトランスレーショナル・リサーチの推進
- 粒子線治療装置の小型化

等

文部科学省の主な対応

《トランスレーショナル・リサーチの推進》

⇒ 革新的ながん治療法の開発に向けた研究の推進
(25億円 新規)

《重粒子線がん治療試験研究の推進》

⇒ 放射線医学総合研究所における重粒子線治療装置の小型化・効率化のための研究開発 等

(運営費交付金の内数(新規分含む))

《がんの本態解明》

⇒ 科学研究費補助金による独創性・多様性に富んだ研究の推進

(54億円)